

## 海外安全対策情報（ポルトガル・2025年1月～3月）

### 1 治安情勢等及び邦人被害の状況

#### (1) 治安情勢等

##### ア 2024年の犯罪発生状況

2024年の一般犯罪認知件数は 354,878 件で、前年比4.6%（17,117件）減少し、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると5.7%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,385件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では 2.6%増加しましたが、2019年と比較すると0.1%減少しました。

2024年中の凶悪犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくりが最も多くを占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、ひったくりが前年比8.7%増（174件）、強姦が前年比9.9%増（49件）、住居における強盗が10.9%増（49件）、商業施設等における強盗が21.7%増（80件）、乗物盗が前年比106.3%増（134件）、銀行等における強盗が128.6%増（18件）となっています。

##### イ その他犯罪発生状況

###### (ア) 詐欺事件

治安警察庁（PSP）及び司法警察庁（PJ）によると、2024年中、少なくとも4,235人が銀行の発行するカードに関して不正使用の被害（オンライン又は物理的に他人のカードを使用して資金を移動）に遭っています。他方、PJによれば、これらの犯罪は銀行カードが不正使用を防止する措置が講じられることにより減少しているとのこと。

###### (イ) サイバー犯罪被害の申告が増加

2024年中、検察庁のサイバー犯罪対策室は、合計3,973件（月平均331件）の詐欺の被害申告を受理しました。最も多く報告された手口は、オンライン詐欺865件（偽のウェブサイトを通じて個人情報や金銭をだまし取る手口）、「オレオレ詐欺」696件（被害者の両親など親しい人を装って主にSNS等を通じて連絡し金銭をだまし取る手口）、フィッシング詐欺489件（送信者を偽装したメールやSMSを送り、偽のウェブサイトへ誘導し、クレジットカードの情報やアカウント情報をだまし取る手口）、詐欺電話（409件）、オンライン求人詐欺（253件）、架空請求（246件）、サイバー攻撃（161件）、暗号資産詐欺（139件）などです。

また、PJサイバー犯罪対策本部によると、AIを利用したいわゆる「ロマンス詐欺」、AIを使った発信者番号通知スプーフィング詐欺（発信者が電話番号を別の人物や企業に見せかけ、相手をだます手口）も発生しているとのこと。

###### (ウ) MBWayを利用した詐欺について

共和国警備庁（GNR）とPSPによると、MBWayサービスに関連した詐欺の認知件数は2024年中4,467件（前年比6%増加）でした。MBWayアプリの利用者は約600万人で、1千万枚のカードが登録されており、MarketplaceやOLXなどのオンラ

インショップでの被害が多く、オンラインショップの出店者が支払方法の一つとしてMBWayを導入する際に騙されるパターンと利用者が支払いの際に騙されるパターンに大別されます。

**(エ) 交通事故の傾向について**

2024年中の事故については、141,193件が発生(前年比2.3%増加)し、死亡者476人(前年比0.6%減少)、重傷者2,736人(前年比3.4%増加)、軽傷者44,154人(前年比2.9%増加)でした。最も死亡者が多かったのは、7月(全体の10.9%)及び8月(全体の10.7%)でした。

**(オ) 逃亡受刑者の続報**

2024年9月7日、アザンブージャ市内アルコエントレ地区にあるヴァレ・デ・ジュデウス刑務所から強盗や組織犯罪などの罪で収監されていた受刑者5名(ポルトガル人2名、アルゼンチン人1名、英国人1名、ジョージア人1名)が逃走しましたが、警察は同年中に3名を逮捕し、本年2月に逃亡していた残り2名がスペインで発見されたことから、全ての逃亡者の身柄を拘束しました。

**(2) 邦人被害**

2025年1月から3月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は11件で、強盗及びすりの被害でした。

リスボン市内、ロシオ広場、サンタ・アポローニア駅周辺、アルファマ地区、バイホ・アルト地区、ベレン地区及びポルト市内において発生しており、バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ、貴重品を抜き取られています。人の多い場所では、歩いていても鞆は正面で持つなど盗難対策をしましょう。また、3月に発生した強盗については、午後7時頃、一人で観光地区を歩行中に男女に話しかけられ、羽交い締めにされた上で鞆を盗まれるという事案でした。ポルトガルは、比較的治安の良い国ですが、注意を怠らないよう気をつけてください。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

ア 1月 なし

イ 2月 すり5件

ウ 3月 強盗1件、すり5件

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「[安全の手引き](#)」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「[たびレジ](#)」への登録もお願いします。

**2 報道された主な凶悪犯罪**

**(1) 殺人**

- ・ 2月5日、アマドーラ市内レボレイラ地区でジムから出てきた40歳男性がバイクに乗った男に拳銃で撃たれて死亡しました。被害者は、薬物密売などの罪で服役していて約半年前に出所したばかりでした。
- ・ 2月9日、ファロ市内アロエス地区にあるカフェで、36歳の男性が知人の男と口論になり、拳銃で撃たれて死亡しました。

## (2) 強盗

- ・ 2月4日、オエイラス市内を中心にバスや電車内で強盗を繰り返し、公営住宅街に呼びつけた出前配達員を暴行して金品を奪っていた15歳から19歳までの少年6名がPSPによって逮捕されました。
- ・ 2月4日午前2時頃、ブラガ市内にある住宅の鍵のかかっていない2階の窓から覆面をした2人組が侵入し、就寝中だった60歳と67歳の夫婦に暴行し、現金100ユーロと貴金属を奪って逃走しました。妻は頭部を負傷して病院に搬送されました。
- ・ 2月5日、ポルト市フォルモーザ通りで、外国籍の男性が若い2人組の男にナイフで脅され、金品を奪われました。同2人組は7日、同市内で捜査中の警察官に逮捕されました。
- ・ 3月3日午後11時過ぎ、シントラ市カセン地区エリアス・ガルシア通りの路上で、少年3名が突然現れた男に拳銃で脅され、金品を奪われました。犯人は逃走する際、3人に向かって発砲し、1名が耳にかすり傷を負いました。
- ・ 3月25日午前2時頃、レイリア市内マラゼス地区にある住宅に3人組が押し入り、3万ユーロ相当の貴金属や現金を奪って逃走しました。犯人は子供を人質にして、現金や貴金属を渡すよう強要したとみられます。

## (3) すり

- ・ 3月24日、PSPはリスボン市内バイシャ地区で、観光客の隙を見て鞆から現金480ユーロの入った財布などを盗んだ22歳と24歳の女2人組を逮捕しました。

## (4) その他

- ・ 2月3日午後10時頃、リスボン市カルニデ地区パードレ・クルス街区で、走行中の乗用車が何者かが発砲があり、16歳の少年が軽傷を負いました。
- ・ 2月21日午前8時頃、リスボン市マルティンモニス地区ベンフォルモーゾ通りでガンビア国籍の男性が知り合いの同国人と口論となり、刃物で切り付けられました。PSPによると、薬物取引のトラブルによるとのことです。
- ・ 3月24日午後2時半過ぎ、リスボン市内アルバラード地区にあるパードレ・アントニオ・ヴィエイラ高校の入口付近で対立するグループのメンバー約25人が乱闘が発生し、一部が校内に乱入するなどしました。目撃者によると、ショットガンや刃物を持っていた若者もいたとのこと。

## 3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

**4 誘拐事件発生状況**

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

**5 対日感情**

良好です。

**6 日本企業の安全に関する諸問題**

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。